

兼任教員情報公開用（最近5年間の主な業績等）

2023年

氏名	田鎖 麻衣子	担当科目	導入ゼミ、外国法文献読解Ⅰ
学 位			
2016年3月	博士（法学）（一橋大学）		
主 な 学 歴			
年 月	事 項		
1993年3月	東京大学法学部卒業		
2013年4月	一橋大学大学院法学研究科博士後期課程入学		
2016年3月	一橋大学大学院法学研究科博士後期課程修了		
主 な 職 歴・経 歴			
年 月	事 項		
1992年11月	司法試験合格		
1993年4月～ 1995年3月	司法修習生		
1995年4月	弁護士登録（第二東京弁護士会所属）		
2005年6月～	日本弁護士連合会 刑事拘禁制度改革実現本部事務局次長		
2005年8月～ 2009年7月	日本弁護士連合会 刑事拘禁制度改革担当嘱託		
2016年4月～ 2017年3月	一橋大学大学院法学研究科特任講師（ジュニアフェロー）		
2017年3月～ 2020年9月	法務省 法制審議会少年法・刑事法（少年年齢・犯罪者処遇関係）部会幹事		
2017年4月～	一橋大学大学院法学研究科非常勤講師		
2019年6月～	特定非営利活動法人 CrimeInfo 理事		
2021年2月	フランス共和国 教育功労章シュヴァリエ受章		
最近5年間の主な業績等			
年 月	事 項		
2021年12月	【論文】 「日本型刑事手続と国際人権法—弁護士会活動の観点から—」（法学館憲法研究所 Law Journal 25号）		
2021年3月	「検察官による被疑者の再犯防止措置」（一橋法学 20巻1号）		
2021年2月	「刑事司法制度としての死刑を考える」（福音と世界 2021年3月号）		
2020年10月	「日本型刑事拘禁の課題と国際人権基準」（国際人権 31号）		
2019年9月	「欧州人権条約3条と終身刑」（酒井安行他編「国境を超える市民社会と刑事人権：新倉修先生古稀祝賀論文集」、現代人文社）		
2019年7月	「精神障がい者・知的障がい者と死刑確定後の手続」（法律時報 1141号）		
2019年4月	「再審請求中の死刑執行」（季刊刑事弁護 98号）		
2018年4月	「社会的弱者と死刑：日本における議論の開始と、その基礎となる情報資料の必要性」（CrimeInfo 論文・エッセイ集1号）		
2021年12月	【翻訳】 ルーシー・ハルトン／ローレル・タウンヘッド「拘禁された親を持つ子ども — 国際基準とガイドライン」（CrimeInfo 翻訳資料）（監訳）		

2021年2月	国連ウィーン事務所犯罪防止刑事司法部門「終身刑」(CrimeInfo 翻訳資料) (翻訳)
2020年10月	アメリカ法曹協会「死刑事件における弁護人の選任及び活動のガイドライン 2003年2月改訂版」(CrimeInfo 翻訳資料) (翻訳)
2020年3月	アンソニー・ルイス『ゲデオンのトランペット』(現代人文社) (翻訳)
	【書評】
2022年12月	「井田良著『死刑制度と刑罰理論—死刑はなぜ問題なのか』」(刑事法ジャーナル 74号)
	【学会報告】
2019年11月	「日本型刑事拘禁の課題と国際人権基準」(国際人権法学会第31回(2019年度)研究大会)
	【講演】
2023年2月	「『拘禁刑』創設の意義と課題」(駒澤大学法科大学院・司法研究所特別講演会)
2022年4月	「支えているのは私たち?~ダイヨーカーゴク・取調べ・死刑~」(伊藤塾第314回「明日の法律家講座」)
2022年3月	「アメリカの死刑事件と『弁護人の効果的な援助を受ける権利』」(日本弁護士連合会・刑事事件弁護セミナー「死刑事件弁護はどうあるべきか~手引き『死刑事件の弁護のために』の改訂を踏まえて」)
2022年3月	「刑事政策と被害者支援~ノルウェー・フィンランド・フランス・米国における取組瞥見~」(兵庫県弁護士会死刑制度検討協議会)
	【パネル討論】
2023年3月	成城大学治療的司法研究センター設立5周年シンポジウム「新しい拘禁刑は何をもたらすか?」
	【教材作成】
2021年7月	ワークショップ教材『知らないからこそ話し合おう!「刑務所」のこと』(特定非営利活動法人 CrimeInfo 発行)
	【その他】
2022年9月	「『拘禁刑』とは何か—作業・改善指導の義務付けとその意義—」(日本弁護士連合会・刑事拘禁制度改革実現本部ニュース 55号)
2021年4月	「COVID-19 感染拡大危機と刑事施設改革のあり方」(日本弁護士連合会・刑事拘禁制度改革実現本部ニュース 52号)
(参考: 外部リンク) プロフィールURL	